

平成 21 年 6 月 24 日

報告

**第四回学際物質戦略イニシアチブ
バイオグループシンポジウム
新しい創薬・治療**

主催：筑波大学学際物質戦略イニシアチブ

共催：文部省科学研究費特定領域研究「ソフト界面」

共催：世界トップクラス拠点 NIMS 国際ナノアーキテクトニクス研究センター

長崎幸夫*

2009 年 5 月 8 日、筑波大学秋葉原キャンパスにおいて第四回学際物質科学イニシアチブバイオグループシンポジウムを行った。今回は「新しい創薬・治療」という観点を中心とし、東京理科大学、金沢大学及び筑波大学から 10 件のご講演を頂いた。このシンポジウムのねらいは筑波大学戦略イニシアチブ機構が推進している学際的研究の推進の一貫として、創薬研究を進める薬学研究者だけでなく、薬物送達システム、バイオイメージングや基礎・臨床医学を専門とする幅広い研究者が会し、お互いの認識を深め、新たな学際領域を創出していこうとするものである。

講演会は創薬研究に定評のある東京理科大学薬学部から 5 名の演者が様々な観点からの装薬に関して講演していただき、薬物動態やイメージング研究に定評のある金沢大学から 2 名の御講演をいただいた。筑波大学からは薬物を運ぶ技術、薬物の広がりを動物レベルで見る技術及び臨床に展開する技術に関する研究紹介を行った。このように「つくり」、「しらべ」、「つかう」というまさに創薬のゆりかごから墓場までの研究領域が一同に会して議論をする有意義な時間であった。

開には学生も含め 25 名程度の参加者があり、特に若い人には創薬の基礎から応用まで学べる貴重な講演会であった。

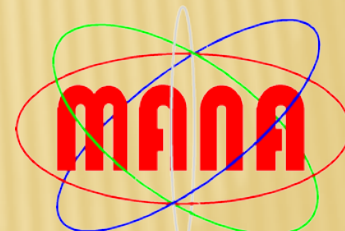
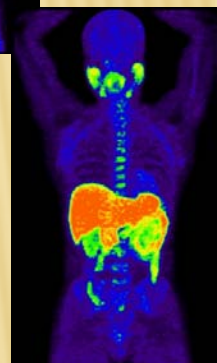
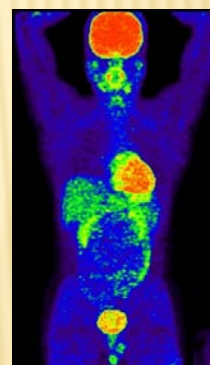
講演会後はこの様に材料と薬学、医療に携わる研究者が分野の違いを超えて深く議論し、懇親を行う、親睦会において議論を深めた。本会の最も大きな目的の一つ、異分野研究者の「お見合い」の場はにぎやかに夜遅くまで続けられた。

最後に本シンポジウムに多大なご協力を頂きました文部科学省特定領域研究「ソフト界面」及び世界トップクラス拠点 NIMS 国際ナノアーキテクトニクス研究センターに感謝いたします。

*筑波大学学際物質科学研究センター

第四回学際物質戦略イニシアチブ バイオグループシンポジウム 新しい創薬・治療

- 10:00-10:20 ご挨拶 長崎幸夫
- 10:20-10:50 プリン受容体をターゲットとした創薬の可能性
東京理科大学薬 月本光俊
- 10:50-11:20 ビジュアルキネティクスによる体内物流解析と個別化医療
金沢大学薬 玉井郁巳
- 11:20-11:50 生体内金属イオンと光を利用する新しい薬剤の設計・合成と創薬支援
東京理科大学薬 青木 伸
- 13:20-13:50 天然物薬剤の微生物合成
東京理科大学薬 早川洋一
- 13:50-14:20 蛍光を用いたマウスin vivoイメージング
筑波大医 三輪 佳宏
- 14:20-14:50 抗酸化ストレス剤の開発について
東京理科大学薬 稲見圭子、望月正隆
- 14:50-15:20 -休憩-
- 15:20-15:50 ビジュアルキネティクスによるターゲティングコンファーマティブ個別化医療
金沢大学保健 川井恵一
- 15:50-16:20 抗体を用いたがんのイメージングと治療
東京理科大学薬 増保安彦
- 16:20-16:50 ワーバーグ効果と治療
筑波大学医 松井裕史
- 16:50-17:20 ラジカル封入ナノ粒子による脳梗塞抑制効果と抗酸化作用メカニズムの検討
筑波大物質 長崎幸夫



2009年5月8日(金)

筑波大学東京キャンパス (秋葉原地区) 講義室 1
〒101-0021 千代田区外神田1丁目18-13
秋葉原ダイビル14階

主催 筑波大学学際物質戦略イニシアチブ
共催 国際ナノアーキテクトニクス研究センター
共催 文部科学省振学術領域研究「ソフト界面」

